

する時、自分の視点がどこにあるのかを意識することによって、この「ずれ」に気づくことは大切なことだと考えられる。

【まとめ】相手の苦しみに目を向けるためには、自分自身の意識がどこへ向かっているのかを注意深く点検することが重要である。

3. 公立富岡総合病院職員の緩和ケア病棟の理念と方針の認識調査 —緩和ケア病棟開設3年を経過して—

新井美由紀, 長塚 宏美, 古館 明美
高橋美枝子, 佐藤 充子, 津金沢理恵子
(公立富岡総合病院 緩和ケア病棟)

【目的】公立富岡総合病院では緩和ケア病棟 (PCU) を開設して3年が経過した。しかし、今日でも「医師からまだ緩和ケアは必要ないと言われた」また「緩和ケア病棟は最期の場所と聞いている」という声を患者・家族から度々聞く。それは情報を提供する職員に公立富岡総合病院 PCU の理念・方針が浸透していないためではないかと考えた。そこで、公立富岡総合病院職員の PCU の理念と方針の認識調査を行い、指針を得たので報告する。

【方法】公立富岡総合病院職員 (委託業者は除く) 597 名 (診療部・看護部・事務部・薬剤部・技術部) へのアンケート調査

【結果と考察】アンケート回収率 65%
アンケート用紙の設問項目を [症状コントロール] [生活] [時期] [場所] [治療] の 5 グループに分けた。全体を通してほぼ過半数が富岡総合病院 PCU の理念と方針について理解されていた。[治療] に関しては、PCU でもがんの治療がされていると考えている人が過半数を示した。これは、部門別ではほとんど差はなかった。[時期] に関する設問では、薬剤部は〈終末期のケア〉との認識が他より多かった。しかし〈緩和ケアはがんと診断されたときからおこなわれるべき〉という認識も同じく多かった。同様、技術部においても〈終末期のケア〉との認識が高く、しかも〈がんと診断された時からおこなわれるべき〉という認識は低かった。情報源に関する設問では、情報源はマスメディアからが多く、今後公立富岡総合病院のホームページに関心を持ってもらうよう働きかけることや、PCU のパンフレットが院内で誰でも簡単に見ることができるよう工夫が必要であると感じた。

【結論】公立富岡総合病院職員の緩和ケアに対する認識において [時期] と [治療] に関する認識が低いことがわかった。今後の課題として、今回のアンケート項目に挙げたような内容に関して情報提供をしていくことが私たち PCU スタッフの役割である。

4. 当院看護師を対象とした緩和ケアに対するアンケート調査

富澤 身江, 狩野 久美, 長島 春香
関口かおり, 金子 千春, 羽鳥裕美子
森美 知子 (独立行政法人国立病院機構
高崎病院 緩和ケアチーム)

【目的】当院看護師に対し、緩和ケアに対する知識・意識に関するアンケート調査を実施し、現状の把握と今後の緩和ケアの活動の指針とする。

【方法】当院看護師 241 名を対象にアンケート調査を実施し、回収後に単純集計する。

【結果】有効回答率 76.3% (171/224 名) であった。当院の緩和ケアチームの存在の理解は 99.4%、リンクナースの存在の理解は 73.0%、リンクナースの活動内容の理解は 34.5%、緩和ケアに興味がある 65.4%、当院における緩和ケアの必要性を感じている 92.9%、がん性疼痛除痛ラダーを理解している 48.5%、医療用麻薬の種類を理解している 31.5%、緩和ケアの教育を希望する 87.7%、事例検討会・研修会の参加の経験がある 61.4% となった。

【考察】緩和ケアの必要性は感じているが、実際の活動について、医療用麻薬についての知識が不十分であることが分かった。緩和ケアの教育を希望しながらも実際の参加率は 61.4% であり、研修会の時間帯や勤務調整が必要と考えられる。また、病棟によって参加人数や緩和ケアの知識に差があることが分かった。当院は地域がん診療拠点病院であり、どの病棟でもがん患者に対して同じ看護が提供できるようにリンクナースが研修会の必要性をよびかけていく必要がある。緩和ケアに対して興味・関心をもてるように、日々の看護を一つ一つ評価していき、緩和ケアの向上に努めていく必要がある。医師の緩和ケアに対するアンケート調査の結果から、医療用麻薬を使用するときに不安がある医師が存在したり、除痛ラダーに沿って治療ができていない医師が存在したりという現状もあり、よりよい看護を提供するために、医師と看護師が協力し合い、知識の向上を目標に研修会の企画や研修会参加への呼びかけをおこなっていく必要がある。

5. 急性期病院に勤務する看護師は DNR についてどう考えるか —アンケート調査より見えてくるもの—

佐藤 和也, 鈴木 雅美, 高橋 結花
清水 政子, 磯部 孝弘, 金子 京子
(前橋赤十字病院 4号病棟)
小保 方馨, 須藤 弥生, 土屋 道代
岡野 幸子, 田中 俊行
(同 かんわ支援チーム)

急性期病院である当院病棟看護師を対象に DNR に対する考え方を調査し、終末期がん患者に対する看護ケア